

高岡市文化財保存活用地域計画 概要版

1. 計画作成の背景と目的

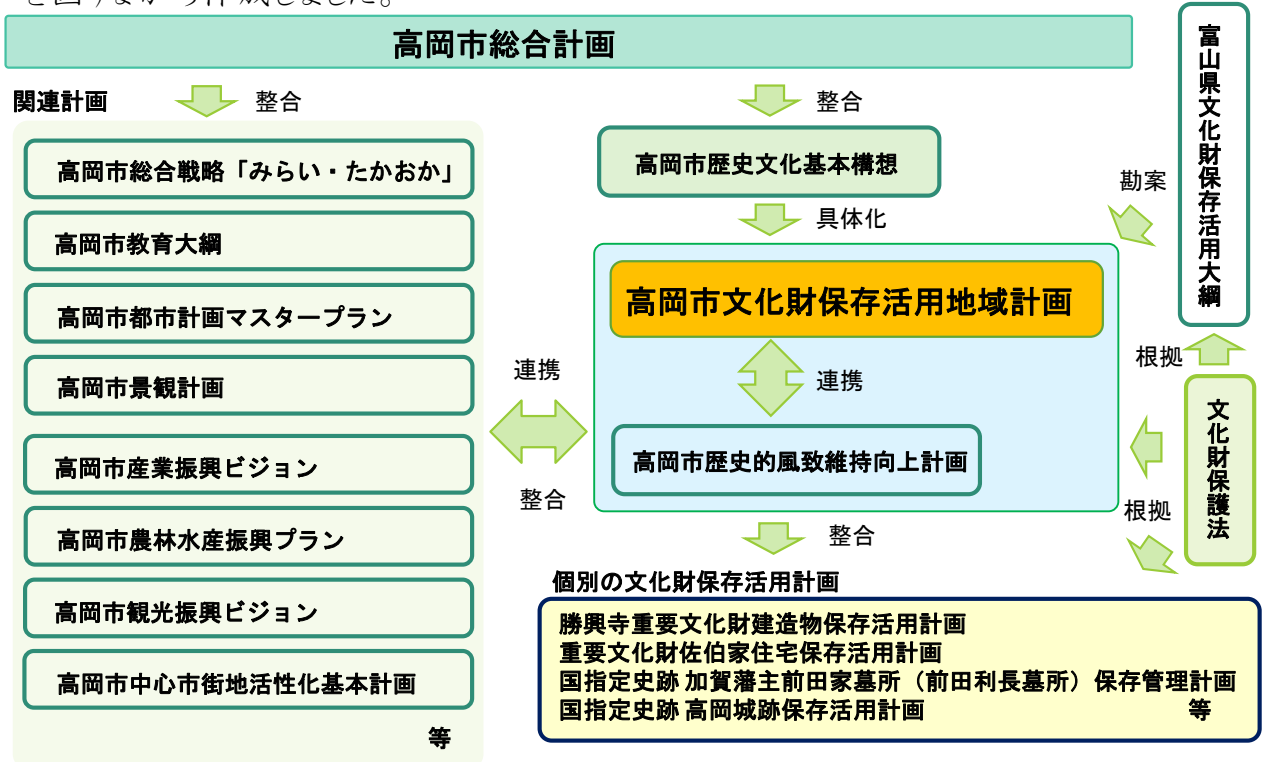
高岡市では平成23年3月に文化財の保存・活用のマスタープランである高岡市歴史文化基本構想とアクションプランである高岡市歴史的風致維持向上計画(歴まち計画)を策定し、取り組んできました。

市内には国宝瑞龍寺や勝興寺をはじめ、多くの文化財がありますが、少子高齢化や価値観の多様化など社会情勢の変化により、文化財保護の担い手の不足や文化財の滅失・散逸が懸念されています。

高岡の歴史と風土に培われてきた多くの文化財をまちづくりに生かしつつ、市民共有の宝として未来に継承し、さらに洗練していくことを目的に文化財保護法第183条の基づく文化財保存活用地域計画を作成するものです。

2. 計画の位置づけ

本計画は、歴史文化基本構想の考え方を進めた文化財の保存・活用を具現化するためのアクションプランです。高岡市総合計画と整合を図りつつ、同じアクションプランである高岡市歴史的風致維持向上計画や他の市の関連計画と連携・調整を図りながら作成しました。



3. 計画期間

本計画の期間は、令和8年度から令和13年度までの6年間とします。

4. 高岡市の概要

高岡市は、富山県の北西部に位置しており、北東は日本海に面し、東側には庄川と小矢部川によって形成された平野部が広がり、西側は二上山とこれに連なる西山丘陵からなる山間部となっています。

その歴史は旧石器時代まで遡り、古代には越中国府が置かれ、国守として赴任した大伴家持が万葉集に詠んだ土地です。

中世には守護所が置かれたとされ、近世には城下町から加賀藩の流通経済の一翼を担う商工業の町として発展し、近代から現在まで日本海側有数の産業都市となっています。

市内には、国宝瑞龍寺や勝興寺に代表される歴史的建造物や歴史的町並み、雨晴海岸など万葉集に詠まれた景勝地が今も残されており、これらの豊富な歴史・文化資産や銅器・漆器をはじめとするものづくりの伝統が今も息づいています。



雨晴海岸

5. 高岡市の文化財の概要

本市には、令和6年3月現在、国指定文化財22件(うち国宝2件)、県指定文化財23件、市指定文化財91件、国選定文化財3件、国登録文化財40件の合計179件があります。それ以外の未指定文化財は、1,802件を把握しています。

類型		国				県		市	総数	
		指定	選定	選択	登録	指定	登録	指定		
有形文化財	建造物	8	-	-	39	1	-	5	53	
	美術工芸品	絵画	2	-	-	0	1	-	4	7
		彫刻	2	-	-	0	5	-	12	19
		工芸品	2	-	-	0	4	-	10	25
		書跡・典籍	1	-	-	0	1	-	3	5
		古文書	0	-	-	0	1	-	14	15
		考古資料	0	-	-	0	0	-	4	4
		歴史資料	0	-	-	0	3	-	0	3
無形文化財	0	-	0	0	0	0	1	1		
民俗文化財	有形の民俗文化財	1	-	-	1	0	-	2	4	
	無形の民俗文化財	2	-	0	0	1	0	2	5	
記念物	遺跡	3	-	-	0	4	-	14	21	
	名勝地	1	-	-	0	0	-	1	2	
	動物、植物、地質鉱物	0	-	-	0	2	-	10	12	
文化的景観	-	0	-	-	-	-	-	0	0	
伝統的建造物群保存地区	-	3	-	-	-	-	-	3	3	
合計		22	3	0	40	23	0	91	179	

6. 高岡市の歴史文化の特徴

本市の自然的・地理的環境や歴史的背景、受け継がれてきた文化財などから、本市の歴史文化の特徴を以下の6つに整理しました。

豊かな水の恵みによる人々の営み ～西山丘陵・小矢部川・庄川扇状地～

小矢部川左岸は、古墳が集中するなど早くから人口集積が進んだ地域です。右岸は、古くから稲作が行われ、近世に形成された散村の風景が現在も残されています。

陸・川・海でつなぐ人とモノの交流 ～北陸道・北前船・鉄道～

小矢部川や伏木の港機能は、古代より重要な交通手段でした。加賀・能登。越中3国の要として築かれた高岡は、物流・経済の中心として発展し、時代を通じて交通の要衝になっています。

大伴家持が愛した越中の風土 ～越中国府と万葉集～

伏木台地には、越中国府の国庁や国分寺が置かれたほか、国守として赴任した大伴家持が数々の歌を詠むなど、古代の越中の政治・文化の中心となっていました。

土地や人に根差した信仰 ～祭礼行事と大寺院～

古代の土地に根差した信仰や多様な仏教信仰は、高岡における文化財の形成の歴史を語る上で重要です。また、信仰と深く結びついた祭礼行事は、高岡独自の歴史的風致を形成しています。

バイタリティ溢れる町民のまち ～職人と商人のまち～

中心市街地は、加賀前田家2代当主・前田利長によって開かれた高岡城下町を礎としています。城下町は商工業の町へと転換され、「加賀百万石の台所」として、加賀藩を支えました。

受け継がれるものづくりの精神 ～伝統と挑戦～

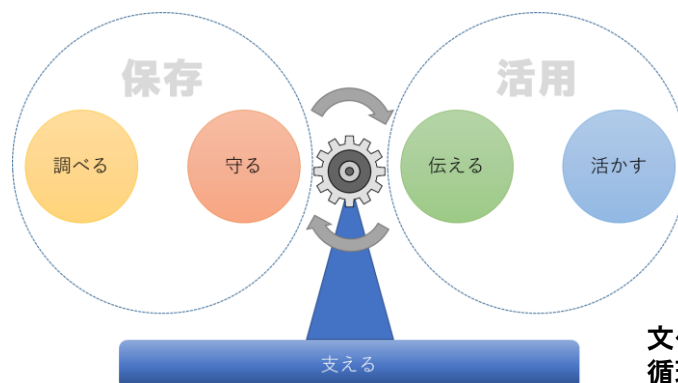
近世以降、商工業都市として発展する中で銅器や漆器などの伝統工芸と技術が発展しました。伝統技術を守りつつ時代に応じたものづくりに挑み続ける精神は、現在も息づいています。

7. 目指す将来像と5つの視点

【目指す将来像】

歴史と文化が世代を越えて受け継がれ、
暮らしの中に息づくまち高岡

文化財の保存・活用に当たっては、高岡市歴史文化基本構想の考え方を踏襲し、保存と活用の循環を図り、①調べる(把握・研究等)、②守る(管理・整備・継承等)、③伝える(学習・発信等)、④活かす(公開・観光等)、⑤支える(人材・協働等)の5つの視点から進めていきます。



文化財の保存と活用の
循環システム

8. 文化財の保存・活用に関する課題・方針・措置

将来像

視点

課題

方針

歴史と文化が世代を超えて受け継がれ、暮らしの中に息づくまち高岡

1 調べる

- ①多くの文化財が把握できていない
- ②調査・研究が十分でない

- ①文化財把握調査の実施
- ②計画的な調査の推進

2 守る

- ①文化財所有者・担い手等の減少・高齢化
- ②指定等文化財の修理・整備が十分でない
- ③文化財施設の収蔵が十分でない
- ④災害・被害リスクの把握が十分でない
- ⑤防災・防犯対策が十分でない
- ⑥被災文化財への対応

- ①文化財所有者・担い手等への支援
- ②指定等文化財の整備の推進
- ③文化財施設の収蔵方法の検討
- ④文化財の状況把握
- ⑤防災・防犯対策の推進
- ⑥被災文化財の復旧等

3 伝える

- ①文化財の情報発信が十分でない
- ②文化財を知る機会が十分でない

- ①文化財情報の内容・発信の充実
- ②郷土学習機会の充実

4 活かす

- ①文化財の公開・活用の充実が必要
- ②周辺環境整備が十分でない
- ③観光活用の充実が必要

- ①文化財の公開・活用の推進
- ②周辺環境整備の推進
- ③文化観光の推進

5 支える

- ①行政の連携体制の円滑化
- ②地域における文化財保護体制が十分でない
- ③文化財保護の支え手の減少

- ①行政の連携体制の整備
- ②所有者等、地域、専門家と行政の連携体制の強化
- ③文化財保護の支え手の育成

措置

- ①-1 資料収集事業
- ①-2 地域資料継承支援事業
- ①-3 地域資料目録作成事業
- ①-4 地域の歴史文化資産調査支援事業
- ①-5 市内遺跡発掘調査事業
- ①-6 遺跡台帳と遺跡分布図の更新
- ①-7 文化財データベースの構築
- ①-8 文化財記録保存
- ②-1 指定等文化財調査
- ②-2 資料調査研究事業
- ②-3 古文書調査事業
- ②-4 埋蔵文化財の整理・調査研究

- ①-1 市内文化財の巡視
- ①-2 文化財の指定、選定、登録
- ①-3 市内町家等再生事業
- ①-4 文化財等管理支援
- ①-5 史跡等管理支援
- ①-6 伝統工芸産業人材養成スクール事業
- ①-7 創業・事業継承支援補助事業
- ①-8 文化財等修理補助事業
- ①-9 地域伝統行事・民俗芸能等継承振興事業
- ②-1 重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業
- ②-2 高岡御車山保存修理事業
- ②-3 高岡城跡保存活用事業
- ②-4 前田利長墓所保存活用事業
- ③-1 資料収集保管方法の検討
- ③-2 埋蔵文化財包蔵地出土品の収蔵方法の検討
- ③-3 美術館・博物館整備の検討
- ④-1 市内文化財の巡視【再掲】
- ④-2 市内文化財情報の共有
- ④-3 地域資料継承支援事業【再掲】
- ④-4 文化財データベースの構築【再掲】
- ④-5 文化財記録保存【再掲】
- ⑤-1 文化財防災・防火訓練の実施
- ⑤-2 地域の文化財見守り体制の推進
- ⑤-3 瑞龍寺建造物耐震対策事業
- ⑤-4 菅野家住宅耐震対策事業
- ⑤-5 災害時減災体制の構築
- ⑥-1 文化財レスキュー事業
- ⑥-2 被災建造物の現状確認
- ⑥-3 瑞龍寺建造物保存修理（災害復旧）事業
- ⑥-4 勝興寺建造物保存修理（災害復旧）事業
- ⑥-5 武田家住宅保存修理（災害復旧）事業
- ⑥-6 桜谷古墳保存修理（災害復旧）事業
- ⑥-7 前田利長墓所保存修理（災害復旧）事業
- ⑥-8 高岡城跡保存修理（災害復旧）事業
- ⑥-9 山町筋伝統的建造物群保存地区修理（災害復旧）事業
- ⑥-10 金屋町伝統的建造物群保存地区修理（災害復旧）事業
- ⑥-11 吉久伝統的建造物群保存地区修理（災害復旧）事業
- ⑥-12 青銅随神像保存修理事業

- ①-1 文化施設における展示
- ①-2 指定文化財のリーフレット等の作成
- ①-3 日本遺産魅力発信推進事業
- ①-4 文化遺産オンラインの更新
- ①-5 デジタルアーカイブの活用
- ①-6 多言語解説整備事業
- ①-7 ストリートミュージアム®の活用
- ①-8 ストリート整備事業
- ①-9 発掘調査の現地見学会
- ②-1 文化財施設における展示・講座
- ②-2 生涯学習講座の開催
- ②-3 公民館・学校への出前講座
- ②-4 ものづくり・デザイン科推進事業
- ②-5 「高岡再発見」プログラム事業
- ②-6 「高岡の歴史文化に親しむ日」に関する作品募集事業
- ②-7 小中学校教員との連携

- ①-1 文化財の公開
- ①-2 ミラレ金屋町開催事業
- ①-3 土蔵造りのある山町筋イベント助成事業
- ①-4 新たな芸術・文化創造推進事業
- ①-5 どこでもステージ事業
- ②-1 町並み保存・都市景観形成補助事業
- ②-2 道路修景事業
- ②-3 案内サイン等表示内容の更新
- ③-1 高岡万葉まつり事業
- ③-2 DMOと連携した三大寺ツアー事業
- ③-3 生きた歴史体感プログラム事業

- ①-1 文化財施設専門職員間の連絡体制の強化
- ①-2 文化財研修会の実施
- ①-3 文化財担当の人員体制の検討
- ②-1 高岡市文化財保存活用地域計画協議会の運営
- ②-2 地域資料継承支援事業【再掲】
- ②-3 地域の歴史文化資産調査支援事業再掲
- ③-1 観光ボランティア養成講座
- ③-2 大学等との連携
- ③-3 地域の歴史文化資産調査支援事業【再掲】

9. 関連文化財群

関連文化財群は、多種多様な文化財を一定のまとまりとしてとらえたものです。個別に認識していた有形無形の文化財をテーマやストーリーによって関連付けすることによって、未指定文化財の価値付けが可能となり、また、高岡市の歴史や風土、文化財をより分かりやすく理解し、その魅力を伝えていくことができるものです。日本遺産ストーリー「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡一人、技、心」なども関連文化財群と言えます。

本計画では、高岡市歴史文化基本構想の考え方を踏まえ、6つの歴史文化の特徴から、7つの関連文化財群を設定しました。

①水の恵みと米づくりに関わる文化財群

小矢部川左岸は県内で最も古墳が集中し、早くから栄えました。右岸は古くから稲作が行われ、加賀藩の財政を支える穀倉地帯となりました。福岡町周辺では菅栽培が行われ、菅笠は特産品となっています。

【主な構成文化財】



石塚遺跡



菅田の景観



佐伯家住宅



吉久伝統的建造物群保存地区

②交流と物流に関わる文化財群

小矢部川と庄川による水運と伏木の港により多くの人とモノが行き交いました。近世の高岡は物資の集散地として藩の経済流通の一翼を担います。明治に入ると鉄道などインフラの近代化を行い発展しました。

【主な構成文化財】



桜谷古墳



木造篠川村市場制札



旧秋元家住宅

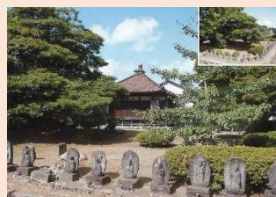


旧伏木測候所

③大伴家持と越中万葉に関わる文化財群

万葉歌人大伴家持は越中国守でした。彼が編纂した「万葉集」のうち越中関係の歌337首は、「越中万葉」と呼ばれ、自然景観や国守の職務など当時の一端を今に伝える貴重な資料となっています。

【主な構成文化財】



越中国分寺跡



雨晴海岸



越中万葉



上麻生のあしつきのり

④大寺院と仏教文化に関わる文化財群

高岡市域では北陸最古級の廃寺や越中国分寺など古くから仏教が盛んでした。市内には国泰寺や勝興寺、瑞龍寺をはじめ文化財が多く残されています。仏教は銅器や漆器、仏壇など産業振興に大きな影響を与えました。

【主な構成文化財】



木造千手観音坐像



瑞龍寺



勝興寺



紙本金地着色洛中洛外図屏風

⑤祭礼行事に関わる文化財群

祭礼は、神への感謝と祈念の行事であり、住民の情熱が注ぎ込まれました。高岡御車山祭や獅子舞などは、古くからの精神や作法等を伝えています。

【主な構成文化財】



高岡御車山祭



二上射水神社の築山行事



伏木神社春季例祭の祭礼行事



氣多神社のにらみ獅子

⑥商工業の町の成立と繁栄に関わる文化財群

高岡城の廃城後、商工業都市へ転換した高岡は加賀藩の経済流通の一翼を担いました。商人が蓄えた資本は、明治以降工場などの産業基盤などに投資して、近代化を図り、高岡は「北陸の商都」と呼ばれました。

【主な構成文化財】



高岡城跡



前田利長墓所



山町筋伝統的建造物群保存地区



旧高岡共立銀行

⑦ものづくりに関わる文化財群

高岡のものづくりの歴史は弥生時代に遡ります。近世の高岡は漆器や染物、鋳物など職人の町でした。鋳物や漆器は明治期に美術工芸品としての技術も向上しました。高岡のものづくりは現在も発展を続けています。

【主な構成文化財】



金屋町伝統的建造物群保存地区



武人文大香炉



高岡鋳物の製作用具及び製品



銅造阿弥陀如来坐像

11. 文化財の防災・防犯

文化財は、災害等により失われる危険性があります。文化財の防災・防犯を推進するためには、所有者・管理者、行政、文化財保護指導員、文化財の所在地周辺の住民それぞれが情報を共有し、平時から各々の役割を意識して災害時の対応に備えておく必要があります。

また、大規模災害発生時には、県を経由して独立行政法人国立文化財機構文化財防災センターに要請を行い、文化財の被害を最小限にするための減災の取り組みを行います。

12. 計画の推進体制

本計画を推進するに当たり、高岡市、国や県などの関係機関、所有者等、地域、学術機関等の専門家らがそれぞれの役割を担うとともに連携、協働をしていく必要があります。

